

事実経過

★昨日午前の時すぎに「社学同」系の一人、森本某（商学部、遊学管理委員）と自称「全学連中執」なる者が、全学連支持会議の看板に因縁をつけ、法学部丁君のむなぐらをつかみ、「中執」なる者は経済学部丁君を足げにした。抗議にもみかわらず、森本某は数分間放さず、どうかつを加え、なぐった。本暴力事件の直後——「全学連中執」なる者と森本某は、私たちが「社学同」のBOMへ抗議にいったときはもういなかった。その時、丁は、暴力事件を知っておきながら「うそだ、デッチあげだ」と暴力を陰ペイした。このとき杉本寮の学校も含め二十余名が参加している。

★昨日午前7時30分ごろ——全学連支持会議のBOMに何のことわりもなく乱入し、木刀に目をつけ、私たちが木刀でなぐりこんだかの如くの手、チあげをおこない、その木刀をもちさるという強盗行為をおこなった。私たちの抗議の時には、木刀などもってはいっていない。

なぜこの問題を重視するか、

私たちは、なぜこの暴力事件を重視するのか、それは、自治会の民主的发展にとって、統一と団結を穿つために、自治会の民主的運営は欠くことのできないものである。要求を實現していく闘いにとって、意見の違いはあっても一致点で行動していくのが原則である。これを暴力的に解決（？）しようとするのは、全く自治会の民主的運営の破壊者であり、統一の妨害者である。

さらに、彼らの暴力は、大学の自治、学生の自治を内部から破壊するものである。昨年の法大事件のときがそうである。昨日の暴力事件にたいして、住吉警察へ電話され、住吉警察から守衛室へ電話がなつてくるという緊迫した事態にまでなったのである。

このように、私たちの自治会活動の発展のためには、学園から暴力を一掃することが必要なのである。

自治会の民主的運営の確立のために

これらの暴力事件とは別に、自治会厚生部から「こうせいNO.12」が出され、その内容が中執、厚生部で何ら確認されていないという状況が生まれている。自治会の民主的運営をふみにじるといふ点ならみれば、形はちがっても同様の役割をはたしている。

今こそ、クラス、サークルの要求を重視し、要求で団結し闘う自治会をつくりあげることこそ、それを可能にするのである。今こそ、要求を重視し、それを實現していくために共に闘おう！